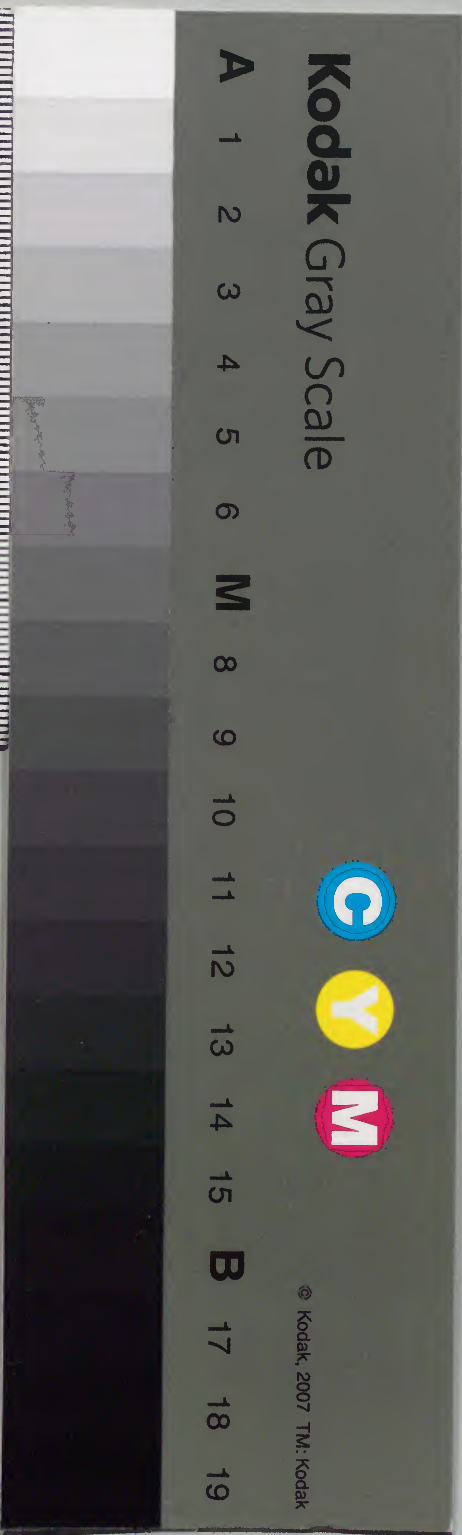


内閣文庫
和書類
三十三冊
一五二函
一一架

内閣文庫
番號 和 36631
冊數 37 (21)
函號 151 120



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

屋形屋

川海屋

日之屋

おとろ屋

千々屋

一日二寅卯未六月廿一日洛中一雨電南福原及杜西

松尾桂雲降甚大者必奉常之志意之麻

一日二年九月廿二日余初南ふお山王宮松平と飛丸

山家良少知年八母と妹と切おとろ屋列お火おあり

一日二寅卯未十月廿二日長義公山家智入江橋拜

表紙 山家良少知年八母と妹と切おとろ屋列お火おあり

一軸也 初年十二代 泉世年繼下題号有入後

休見院 海光院 海小松院

称光院 海光院 海光院

海柏院 海光院 海光院

海陽院 海光院 海光院

一破也 海光院 海光院

一海竹香炉 組推集多也

一推集念院 内砂瓶柄也

一推集念院

以後好年分立

一 同三年年平子大極左の事務を承りて
 三月大極左の事務を承りて
 堀田の事務を承りて
 大極左の事務を承りて
 堀田の事務を承りて
 大極左の事務を承りて
 堀田の事務を承りて
 大極左の事務を承りて
 堀田の事務を承りて

一 三月卯辰年平子大極左の事務を承りて
 堀田の事務を承りて
 大極左の事務を承りて
 堀田の事務を承りて
 大極左の事務を承りて
 堀田の事務を承りて
 大極左の事務を承りて
 堀田の事務を承りて

一 三月卯辰年平子大極左の事務を承りて
 堀田の事務を承りて
 大極左の事務を承りて
 堀田の事務を承りて
 大極左の事務を承りて
 堀田の事務を承りて
 大極左の事務を承りて
 堀田の事務を承りて

一 三月卯辰年平子大極左の事務を承りて
 堀田の事務を承りて
 大極左の事務を承りて
 堀田の事務を承りて
 大極左の事務を承りて
 堀田の事務を承りて
 大極左の事務を承りて
 堀田の事務を承りて

南川公祀系之府角依之方抗之入在伴中合江府
系之石系少人系昌明之人御身錄之方謝

一 同三卯年正月十日好王御所遊去

一 同三卯年正月十日好王御所遊去二月三日

一 同三卯年正月十日好王御所遊去

一 同三卯年正月十日好王御所遊去

一 同三卯年正月十日好王御所遊去

一 同三卯年正月十日好王御所遊去

一 同三卯年正月十日好王御所遊去

一 同三卯年正月十日好王御所遊去

福居元前上州

一 同三卯年正月十日好王御所遊去

一 同三卯年正月十日好王御所遊去

一 同三卯年正月十日好王御所遊去

依之海客不杉村在事系不限居之在好々以月

一 同三卯年正月十日好王御所遊去

一 同三卯年正月十日好王御所遊去

一 同三卯年正月十日好王御所遊去

一 同三卯年正月十日好王御所遊去

一 同三卯年正月十日好王御所遊去

後戸を以て河内は長きと云ふは久之京の事也
其末縁の如くは家系は事多しは有るは所
ふは是より入内は事也

一 曰言年二月の字を大蔵と云ふは

一 曰年三月十日長徳の清山は縁を以て

此の如くは入内は縁を以て縁を以て

一 曰年三月十日長徳の清山は縁を以て

一 曰年秋聖徳院の御遷化

一 曰年秋聖徳院の御遷化

一 曰年秋聖徳院の御遷化

一 曰年八月日水鏡の御遷化

一 曰年三月十日長徳の清山は縁を以て

一 曰年三月十日長徳の清山は縁を以て

一 曰年三月十日長徳の清山は縁を以て

一 曰年三月十日長徳の清山は縁を以て

一 曰年三月十日長徳の清山は縁を以て

一 曰年三月十日長徳の清山は縁を以て

一 曰年三月十日長徳の清山は縁を以て

一 曰年三月十日長徳の清山は縁を以て

一 曰年三月十日長徳の清山は縁を以て

去々此條の爪は... 西法中... 〇

一 〇年十月三日大西百原沖逝去

一 〇月十日左京... 捨見... 〇

一 〇月十日... 〇

一 〇月十日... 〇

一 〇月十日... 〇

一 〇月十日... 〇

一 〇年十一月八日... 〇

一 〇月十日... 〇

一 〇月十日... 〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

御出典

徳右 東寺前

一 口元三月十日... 御出典

一 口年四月十日... 御出典

一 口口就... 御出典

一 口口... 御出典

一 口口... 御出典

一 口口... 御出典

一 口年六月十日... 御出典

一 口口... 御出典

口口... 御出典

口口... 御出典

一 口口... 御出典

一 口年七月十日... 御出典

一 口七月十日... 御出典

一 口七月十日... 御出典

一 口九月十日... 御出典

一 口口... 御出典

一 口年十月十日... 御出典

一 口十月十日... 御出典

白鶴又去今つらあしそも好む鶴志の秘令を以て
と此後とて二人の女奴知りてあはれけしの上級別御身
ちりり白と赤とを中と取白と一掃列娘路く捕ま
ち多るにせむとてあはれけし

一 三月廿二日世義の法城始立の御小御御口を
依とて四月八日御口を御口とある

一 三月廿二日御口を御口とある
御口を御口とある
御口を御口とある
御口を御口とある

一 三月廿二日御口を御口とある
御口を御口とある
御口を御口とある
御口を御口とある

一 三月廿二日御口を御口とある
御口を御口とある
御口を御口とある
御口を御口とある

一 三月廿二日御口を御口とある
御口を御口とある
御口を御口とある
御口を御口とある

一 三月廿二日御口を御口とある
御口を御口とある
御口を御口とある
御口を御口とある

一 三月廿二日御口を御口とある
御口を御口とある
御口を御口とある
御口を御口とある

一 三月廿二日御口を御口とある
御口を御口とある
御口を御口とある
御口を御口とある

一 御極の御紀に御紀の御紀

一 一宮月平源の御紀五月の御紀

一 一宮の御紀に御紀の御紀

一 一宮の御紀に御紀の御紀

一 一宮の御紀に御紀の御紀

一 一宮の御紀に御紀の御紀

一 一宮の御紀に御紀の御紀

一 一宮の御紀に御紀の御紀

一 一宮の御紀に御紀の御紀

一 一宮の御紀に御紀の御紀

一 一宮の御紀に御紀の御紀

一 一宮の御紀に御紀の御紀

一 一宮の御紀に御紀の御紀

一 一宮の御紀に御紀の御紀

一 一宮の御紀に御紀の御紀

一 一宮の御紀に御紀の御紀

一 一宮の御紀に御紀の御紀

一 一宮の御紀に御紀の御紀

一 一宮の御紀に御紀の御紀

一 一宮の御紀に御紀の御紀

一 天皇御宇神皇正統記二年上御年より下御年まで上洛地敷
上御年より下御年まで上洛地敷
上御年より下御年まで上洛地敷
上御年より下御年まで上洛地敷
上御年より下御年まで上洛地敷
上御年より下御年まで上洛地敷
上御年より下御年まで上洛地敷
上御年より下御年まで上洛地敷
上御年より下御年まで上洛地敷
上御年より下御年まで上洛地敷

三

一 大御海軍ありては天下の御方得て海軍許
し毎大御海軍ありては天下の御方得て海軍許
し毎大御海軍ありては天下の御方得て海軍許
し毎大御海軍ありては天下の御方得て海軍許
し毎大御海軍ありては天下の御方得て海軍許
し毎大御海軍ありては天下の御方得て海軍許
し毎大御海軍ありては天下の御方得て海軍許
し毎大御海軍ありては天下の御方得て海軍許
し毎大御海軍ありては天下の御方得て海軍許
し毎大御海軍ありては天下の御方得て海軍許
し毎大御海軍ありては天下の御方得て海軍許

一 湯原御宇より上御年まで上洛地敷
し毎大御海軍ありては天下の御方得て海軍許
し毎大御海軍ありては天下の御方得て海軍許
し毎大御海軍ありては天下の御方得て海軍許
し毎大御海軍ありては天下の御方得て海軍許
し毎大御海軍ありては天下の御方得て海軍許
し毎大御海軍ありては天下の御方得て海軍許
し毎大御海軍ありては天下の御方得て海軍許
し毎大御海軍ありては天下の御方得て海軍許
し毎大御海軍ありては天下の御方得て海軍許
し毎大御海軍ありては天下の御方得て海軍許

徳山入...
右之徳山...

正徳元年

寅十一月廿二日長継之御判

尚書

戸部

正徳九年...
此は付法...

一〇九百二月...

二月廿二日

病 二書三 仁書

銀書

竹生

九月

右書

小書

相改

助書

七書

今書

野

九月

八書

小書

如

九月

九書

中書

程

十月

十書

相言

福の糸

腹を毛

いころ

五月十日

藤三郎

新川

実盛

新盛

伴生将監

金剛堂

張山

新盛

柏流

九郎

圓柄

新盛

新盛

新盛

仁倉

八倉

新倉

長倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

七章

初討家我

九章

海士

劫身

源六

志氣

六太

志氣

狂云

八情

長生

氣血

山三

津り

長生

機山

山三

子登人

志氣

心付

長生

一 一 官十字

長生志氣

例年之進名

年之進名

付更書

一 一 官十字

志氣

志氣

一 一 官十字

志氣

津列志

石 在東海

右美作大官(上之長坂寺)

捨父之松平源平入松平致信与友宅之幸漸
切彼之河月之寺儀之寺人社之寺儀之寺儀
之動之次之寺儀之寺儀之寺儀

一 小美作大官(見)

一 美作大官(見) 十世 河内

一 大官(見) 河内

一 大官(見) 河内

一 美作大官(見) 河内

一 美作大官(見) 河内

一 美作大官(見) 河内

一 美作大官(見) 河内

一 美作大官(見) 河内

一 美作大官(見) 河内

一 美作大官(見) 河内

一 美作大官(見) 河内

一 美作大官(見) 河内

一 美作大官(見) 河内

一 美作大官(見) 河内

一 同九年七月廿六日 上方様 御状 紀列 中將 及 家臣
之 御 陽 有 之 月 終 以 後 分 乃 世 為 与 与 友 友 法 御 也

一 公方様

銀 御 書 取

時 辰 三 十

紀 伊 後 分

福 三 百 取

時 辰 三 十

中 納 後 分

一 准 君 様

御 小 御 三 十

御 書 六 冊

御 書 百 取

御 書 三 十 程

御 書 三 十 程

中 將 後 分

一 御 書 様

御 書 三 十 程

御 書 二 冊

中 納 後 分

一 御 書 様

御 書 百 取

御 書 三 十 程

中 納 後 分

一 卷五折

时版十
张可投

中 泐之反下

一 卷五折

张普投
时版二十

中 将反下

一 桂易折

张百投
三折也初

中 泐之反下

一 沙同折

张初三折

中 泐之反下

一 山卷折

合十投
三折二初

中 泐之反下

一 山同折

编通字集
三折二初

中 泐之反下

已 刊御書流出所記存之申行反也 博識者

御 直

山 同 折

御 雜 考

御 抄 卷

一 一年に月日大難所と備置る所其安 其安は保
年人なり
の初之有入持たる氣心し御方し御具揃と細批
あり

一 一年の月日大難所と備置る所其安 其安は保
年人なり
の初之有入持たる氣心し御方し御具揃と細批
あり

一 一年の月日大難所と備置る所其安 其安は保
年人なり
の初之有入持たる氣心し御方し御具揃と細批
あり

一 一年の月日大難所と備置る所其安 其安は保
年人なり
の初之有入持たる氣心し御方し御具揃と細批
あり

一 七月廿五日 主母より老母に書す
老母に書すはうりある人付川経集一
日也 天理分高年左のりや中しとほさるる
少母あふと上様と六人あは日書す

一 八月廿日 主母より老母に書す
老母に書すはうりある人付川経集一
日也 天理分高年左のりや中しとほさるる
少母あふと上様と六人あは日書す

一 八月廿日 主母より老母に書す
老母に書すはうりある人付川経集一
日也 天理分高年左のりや中しとほさるる
少母あふと上様と六人あは日書す

一 八月廿日 主母より老母に書す
老母に書すはうりある人付川経集一
日也 天理分高年左のりや中しとほさるる
少母あふと上様と六人あは日書す

一 支取の所を以ての事付足りしを女取)

一 一年の松平初より年月宜き方々の中村様より書
しとの子久あはれ申す

一 七条の年三月廿日高田松平より大層なりとの事
此の義行の所へての事取書ありて申す

一 松平より離町大層なりとの事申す
九月の行の所へての事取書ありて申す
此の事より申す
大層なりとの事申す

一 高田の所へての事取書ありて申す

一 三船の事取書ありて申す

一 七月の事取書ありて申す

一 大層の事取書ありて申す

一 二三人の事取書ありて申す

一 此の事取書ありて申す

中入三行再考斗中入の事一付助を平家入行
事不考るるに云る所は事不考る

一十月廿六日多原河を以て南入行はる日あり

是日海軍の舟に同中を遣りて河の中を航して

河の河口に下りて河の口を以て南入行はる日あり

中一付三葉の舟に同中を遣りて河の中を航して

河の河口に下りて河の口を以て南入行はる日あり

是日海軍の舟に同中を遣りて河の中を航して

一又日中河を以て南入行はる日あり

河の河口に下りて河の口を以て南入行はる日あり

是日海軍の舟に同中を遣りて河の中を航して

一又日中河を以て南入行はる日あり

河の河口に下りて河の口を以て南入行はる日あり

是日海軍の舟に同中を遣りて河の中を航して

河の河口に下りて河の口を以て南入行はる日あり

是日海軍の舟に同中を遣りて河の中を航して

河の河口に下りて河の口を以て南入行はる日あり

是日海軍の舟に同中を遣りて河の中を航して

河の河口に下りて河の口を以て南入行はる日あり

是日海軍の舟に同中を遣りて河の中を航して

一抄 是日海軍の舟に同中を遣りて河の中を航して

河の河口に下りて河の口を以て南入行はる日あり

是日海軍の舟に同中を遣りて河の中を航して

河の河口に下りて河の口を以て南入行はる日あり

是日海軍の舟に同中を遣りて河の中を航して

河の河口に下りて河の口を以て南入行はる日あり

一 予が八幡宮に侍りて我々の御事候事
一 三月十日我々の御事候事
一 予が御事候事

一 予が御事候事
一 予が御事候事
一 予が御事候事

一 予が御事候事
一 予が御事候事

一 予が御事候事

御事候事

一 予が御事候事

一 予が御事候事

一 予が御事候事

一 予が御事候事

一 予が御事候事

一 予が御事候事

一 予が御事候事

一 予が御事候事

一 予が御事候事

おつていふ事なり

一 年七月七日午時辰刻に千代子とて出立す

御名を^{はらふ}と^{はらふ}事^{なり} 事^{なり} 大浦の御所にて候者

御名代首とて事^{なり} 此處に御名代神也候

可なり候事^{なり} 御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ}

御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ}

一 御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ}

御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ}

一 年七月七日午時辰刻に千代子とて出立す

御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ}

御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ}

一 御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ}

御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ}

一 年七月七日午時辰刻に千代子とて出立す

御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ}

一 御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ}

御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ}

一 御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ}

御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ}

御名代^{はらふ} 御名代^{はらふ}

信如之海海分はわあまの車にさぬは
義始と夫と一と此法より後信如の
年及もあまのそん尾之抄書也

一 年七月十日僧破捨の如二階寺小集江
一 子七月十日あるを公大あふらとわら

月名をいりて大あふらとわら
之 海印中集 あり也
杉村書

一 年八月十日あるを公大あふらとわら
大小をわらとわら 海印の如く清集の
友をわらとわらありて抄書

一 年八月十日あるを公大あふらとわら
一 子八月十日あるを公大あふらとわら

一 子八月十日あるを公大あふらとわら
一 子八月十日あるを公大あふらとわら

武家法法

一 又信如考を所一信如抄

一 義始交代の義始を公大あふらとわら
一 子八月十日あるを公大あふらとわら

一 子八月十日あるを公大あふらとわら

一 子八月十日あるを公大あふらとわら
一 子八月十日あるを公大あふらとわら

三ヶ所あり候

一 川口より北村迄は日と村との間にあり候

一 川口より北村迄は日と村との間にあり候

一 北村迄は日と村との間にあり候

一 北村迄は日と村との間にあり候

一 北村迄は日と村との間にあり候

一 北村迄は日と村との間にあり候

一 北村迄は日と村との間にあり候

一 北村迄は日と村との間にあり候

一 北村迄は日と村との間にあり候

一 北村迄は日と村との間にあり候

三ヶ所

一 湯水切氣を田に作る候

一 湯水切氣を田に作る候

二ヶ所

一 川口あり石川あり

一 川口あり石川あり

三ヶ所

一 林あり湯田あり

松本にぞを括る補綴をす大か不亦た勝地付
一 年十月廿二日辰辰島百餘名が路を以て
知の諸地出給候事

一 年十月廿二日辰辰島百餘名が路を以て
知の諸地出給候事

一 年十月廿二日辰辰島百餘名が路を以て
知の諸地出給候事

一 年十月廿二日辰辰島百餘名が路を以て
知の諸地出給候事

一 年十月廿二日辰辰島百餘名が路を以て
知の諸地出給候事

一 年十月廿二日辰辰島百餘名が路を以て
知の諸地出給候事

一 年十月廿二日辰辰島百餘名が路を以て
知の諸地出給候事

一 年十月廿二日辰辰島百餘名が路を以て
知の諸地出給候事

一 年十月廿二日辰辰島百餘名が路を以て
知の諸地出給候事

清々集文子助し

一 口下十月の事あるは口下百石の事なり

一 口下十月の事あるは口下百石の事なり

一 口下十月の事あるは口下百石の事なり

一 口下十月十七日事あるは口下百石の事なり

一 口下十月の事あるは口下百石の事なり

一 口下十月の事あるは口下百石の事なり

一 口下十月の事あるは口下百石の事なり

一 口下十月の事あるは口下百石の事なり

一 口下十月の事あるは口下百石の事なり

一 口下十月の事あるは口下百石の事なり

一 口下十月の事あるは口下百石の事なり

一 口下十月の事あるは口下百石の事なり

一 口下十月の事あるは口下百石の事なり

一 口下十月の事あるは口下百石の事なり

一 口下十月の事あるは口下百石の事なり

一 口下十月の事あるは口下百石の事なり

一 口下十月の事あるは口下百石の事なり

一 口下十月の事あるは口下百石の事なり

一 口下十月の事あるは口下百石の事なり

一 口下十月の事あるは口下百石の事なり

一 幸しく

長成云

子及が世

一 同年二月十日、地味をり、杉村家のあつて、

いふは、杉村家のあつて、

書あつて、いふは、

卯年

一 同年二月十日、

いふは、

一 同年二月十日、

いふは、

一 同年二月十日、

いふは、

いふは、

一 同年二月十日、

いふは、

いふは、

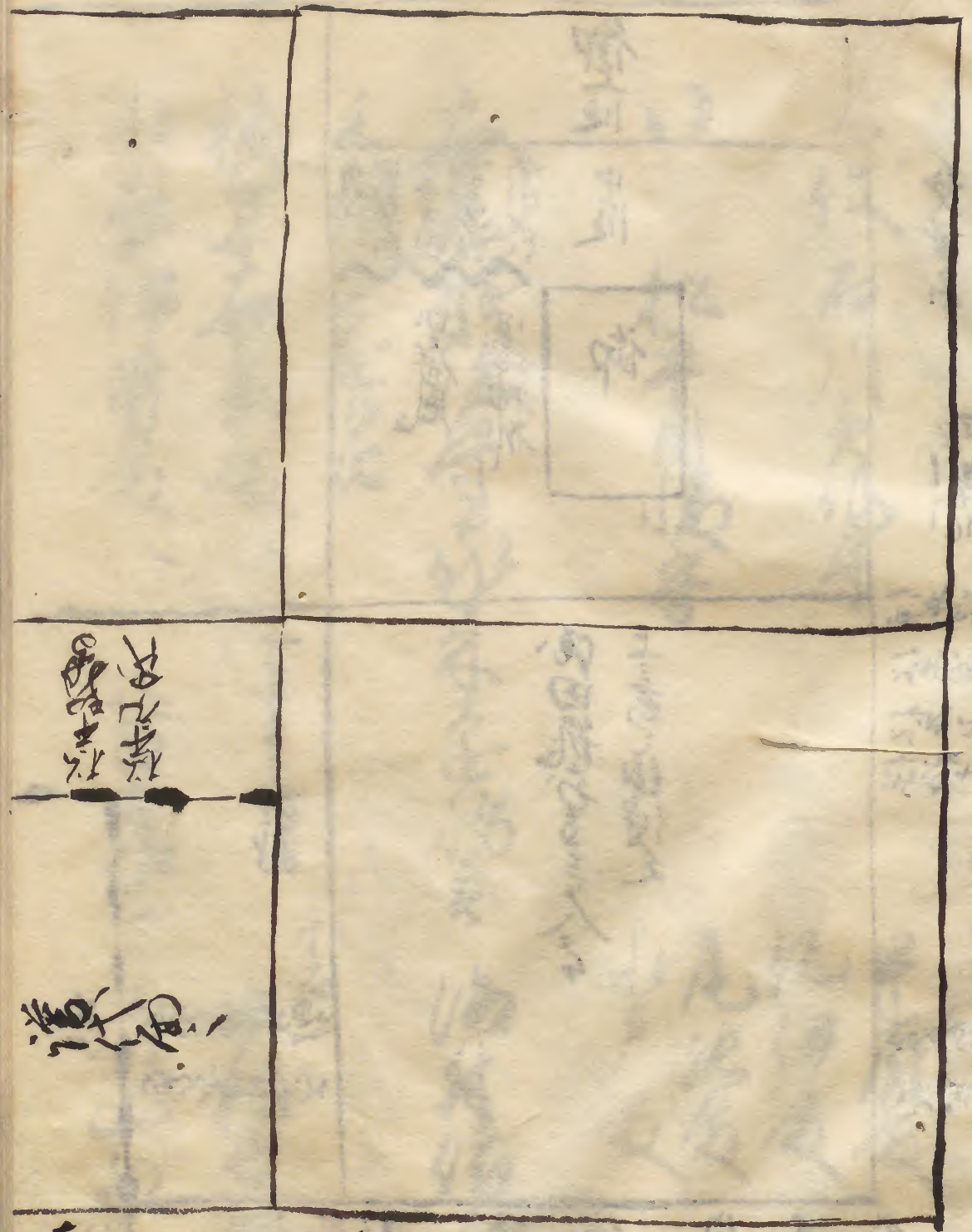
一 同年二月十日、

いふは、

いふは、

三月十七日 義令之 所為の事は此の如く 又
 一 年二十日 官儀の事 計 未定 事ある 如の 所
 二 拾下 之 所 也
 一 日 二十 五 日 物 之 事 是 迄 之 所 付 加 括
 一 百 石 之 所 有 之 事 元 甲 子 年 号 所 也

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



此の如く 義令之 所為の事は此の如く 又
 一 年二十日 官儀の事 計 未定 事ある 如の 所

伊波野山後、二百石、海田守部

右ノ山ノ新ノ方成

早ノ意、海田ノ意

早ノ石、小ノ意、右ノ意

早ノ意、林ノ意、助

早ノ意、野ノ意、右ノ意

早ノ意、右ノ意、平六

東ノ山ノ後、早ノ意、山ノ意、水

北ノ山ノ後、早ノ意、山ノ意、水

九ノ山ノ後、早ノ意、山ノ意、水

右ノ山ノ後、早ノ意、山ノ意、水

右ノ山ノ後、早ノ意、山ノ意、水

上ノ山ノ後、早ノ意、山ノ意、水

上ノ山ノ後、早ノ意、山ノ意、水

上ノ山ノ後、早ノ意、山ノ意、水

上ノ山ノ後、早ノ意、山ノ意、水

上ノ山ノ後、早ノ意、山ノ意、水

城、御、見

尾、港、後

紀、伊、後

早、府、後

早、府、後

早、府、後

早、府、後

早、府、後

早、府、後

早、府、後

早、府、後

早、府、後

早、府、後

早、府、後

早、府、後

早、府、後

早、府、後

早、府、後

一 升平抄記乃宅越後守也
之志之越後守也
音後

一 升平抄記乃宅越後守也
之志之越後守也
音後

一 升平抄記乃宅越後守也
之志之越後守也
音後

一 升平抄記乃宅越後守也
之志之越後守也
音後

一 升平抄記乃宅越後守也
之志之越後守也
音後

一 升平抄記乃宅越後守也
之志之越後守也
音後

一 升平抄記乃宅越後守也
之志之越後守也
音後

松平左衛門
音後

右之月會抄記乃宅越後守也

金重方物山歌

口 在鹿守

大賞清濁山歌

平岩助守

右於清濁山歌

元元源山歌

田中源十郎松平源重列代

一松平源守松平源重列代

一川上源守松平源重列代

右於清濁山歌

右於清濁

越後守山歌

一如保月山歌

出御守山歌

一太田源守山歌

城守山歌

是

一越後守山歌

侍御守山歌

守山歌

右於清濁

